



▶コンサート第2部で、むらさきコーラス、コーラス白樺、コーラスななしぐれのメンバーと「りんどうの花」など5曲を一緒に歌った澤田さん

市制施行20周年

記念インタビュー

市ふるさと大使 澤田知可子さん Chikako Sawada

本市のふるさと大使で、歌手の澤田知可子さんによる市制施行20周年記念コンサート(主催:市、岩手日報八幡平広華会)が8月30日、安比高原プラザホールで開かれました。

開催にあたり、幼少期に過ごした本市での思い出や大使としての活動のほか、記念コンサートに向け新たに作詞し、コンサートで初披露した新曲「りんどうの花」に込めた思いなどを伺いました。

▶インタビューは、内容を整理し、文章の順番を入れ替えたほか、時期など、一部を補足表記しています。



▶2部構成で行われたコンサートの第1部で、1990年の大ヒット曲「会いたい」など8曲を披露した澤田さん(右)と、夫でピアニストの小野澤篤さん

澤田知可子さんと八幡平市との縁について、あらためて教えてください

母が旧安代町出身で、荒屋新町駅から歩いてすぐのところに実家があります。母は、里帰り出産でこちらに帰り、私は昭和38(1963)年の8月4日に産声を上げたということです。

その後私は、神奈川県川崎市などで育つのですが、物心がついてから、毎年夏になると、1カ月ぐらいずつと岩手にいる感じでした。鮮明に覚えているのは小学校2年生の夏です。私の弟が生まれたばかりで、岩手に来て、私と姉は、おばあちゃんとお暮らしていたような感じでした。

夏は毎日、虫取りをするんですが、すくうだけでトンボが取れるっていう…すごいです、大自然です。あと、町のお祭りの時は、家から花火が見えるとか、そういうのを夏休みの宿題で、絵にしてみました。

おばあちゃんは歌が大好きで、盆踊りの時に、櫓に登って、スピーカーを使って、歌ったり、踊ったりしていた記憶があります。母は全く歌わないので、私は隔世遺伝ですかね。

八幡平市へはどのくらいの頻度で足を運ばれているのですか

コロナ禍前までは、毎年2回くらい来ていたんですが、コロナ禍で

まったく動きが止まり、市に来るのは5、6年ぶりです。

歌手としては、旧安代町とき、平成16(2004)年に、初めてコンサートをやらせてもらいました。その後は、平成27(2015)年の合併10周年の際に、コンサートをやらせていただいたあと、平成29(2017)年には新安比温泉静流閣の女将さんと呼んでいただき、ディナーショーをやらせていただきました。おばあちゃんが一番前の席で見てください。一曲終わるたびに「うまい!うまい!」と。また別の時には、特別養護老人ホームりんどう苑でも歌いました。慰問みたいな感じですね。

10周年記念式典では、江間章子さんの「夏がくれば思い出す」と歌ったのを覚えています。その時のコンサートでは、おばあちゃんがステージに上がってきて、1曲アカペラで歌ったんだよね。生きているうちに歌声が聞きたいっていう思いがあったからうれしかったですね。

八幡平市は澤田さんにとってどんな場所ですか

自分の夢の種が全部ある、礎のような場所です。私が「安代の四天王」って呼んでいる人たちがいるんですけど、平成16年に開いた最初のコンサートの時に意気投合して「あなた、これから八幡平市になったら、

頑張っている人たちが憩い、癒やされに訪れたら「いらっしやい、このまちはあなたを祝福してくれる場所だよ」というようなイメージで、またりんどうが、とにかく美しい。なんだか青龍のような色だと思って。そのりんどうが世界のいろんな場所に飛び立っていく、このまちから青龍のごとく世界を旅する花よって。私はなかなかここに來ることができないけれども、いつも気持ちはここにありますよっていう思いを乗せました。



▶りんどうなどで飾られた花束を贈られ、喜ぶ澤田さんと小野澤さん

自身や芸能活動で、今後予定していること、考えていることはありますか

今年の10月5日でデビュー38周年で、再来年で40周年になります。今、歌は薬になるっていうテーマで、全国

で「うたぐすりコンサート」をさせていただいています。これは「会いたい」という曲のおかげです。「会いたい」という歌は、大切な人を「く」してしまつた。けど、悲しいってだけでなくて、歌を聴きながら、記憶の中で会いに行く時間旅行をして、自己肯定感を上げていくっていう。コンサートではそんな風にお話をしています。この「うたぐすりコンサート」をもっと全国に広げ、八幡平市でも「うたぐすりコンサート」が定着できるように、澤田知可子の音楽活動をもっと皆さまに知っていただければうれしいなと思っています。そういう思いも持って、この「りんどうの花」を作りました。次は30周年ではなく、毎年のように「ただいま」と。「八幡平ドラゴンアイ」を見に行こうっていうふうに、歌を通じて、みんなを連れて来れるようなふるさと大使になりたいですね。

どのような思いを込めて「りんどうの花」を作詞されたのですか

「風」「岩手山」もそうなんですけれど、心地よい、素敵なキーワードを全部入れたらなと思って。そして、夢をかなえるという意味で「引き寄せ」っていう言葉を使いたかったのと、日ごろ

今回の記念コンサート開催と「りんどうの花」誕生の経緯を教えてください

1月に市長が東京にいらしてくださいます。市制20周年の記念行事を8月にやるということで、とある

絶対にふるさと大使になるべきよって。10周年のときも歓迎してくださって。その人たちが背中を押してくれたようなものです。

今まで、機会があれば、いろいろなところで『岩手県で産声を上げました』という話をさせてもらっています。スキージャンプの小林陵侖選手が活躍すると、うれしいし自慢です。そこで八幡平市というキーワードを出すと『あゝそうなんだ』と皆さんに思っていただけです。

※2 平成28(2016)年5月27日に大使に委嘱

※3 記念コンサート前日の8月29日にインタビュー

りんどうの花

作詞 澤田 知可子
作曲 小野澤 篤

むらさきのりんどうが
ひかり引き寄せて咲く
凜々とりんどうが
安代を彩るころ

岩手山のふもとに
旅人は立ち止まり
八幡平の風
そよそよと手招く路

あなたのがんばりを
祝福するように
夏の輝きを浴びて
ここに芽吹きました

悠々とりんどうは
清らかに咲き誇る
青龍のごとく
世界を旅する花よ

遠く会えなくても
心はここにある
かすみ行く空の下で
ともに芽吹かせましょう

あい色のりんどうが
愛を引き寄せて咲く
幸せのつぼみ
あなたへ捧げたい花

▶右のQRコード先のyoutube動画で「りんどうの花」のメロディーが視聴できます。

